令和４年度　現職研修助成事業研修概要

下関市立本村小学校

１　研究主題

進んで学ぶ子を育てる
～ICT を活用した個別最適な学びと協働的な学びの充実～

本校では一昨年度から２年間、校内研修の研究主題を『進んで学ぶ子を育てる』とし、進んで学ぶためには、まずは「学力の基礎・基本的な要素の定着」が大切であると考え、重点を置いて研修を行ってきた。また、「学びたい」という子どもの学ぶ意欲を育てることは学力の下地となると考え、児童が目を輝かせながら授業に臨み、「わかった」と笑顔で話せる授業をめざし、授業改善・授業力向上に取り組んできた。

令和２年４月中教審は、２０２０年代を通じて実現すべき「令和の日本型学校教育」の姿として、２つの学びの充実を挙げている。個別最適な学びと協働的な学びである。Society 5.0時代を生きる子供たちにとって、教育におけるICTを基盤とした先端技術の活用は必須となってくる。そして、２０１９年１２月に文部科学省が打ち出した「GIGAスクール構想」のもと、下関市でも児童一人１台のタブレットと、電子黒板が各教室に配備されるなど、ICT環境が大きく変化した。

そこで本年度は、副主題を「ICTを活用した個別最適な学びと協働的な学びの充実」とし、ICT 環境を整えながら、教員のICT 活用能力の向上を図るとともに、授業におけるICT 機器の効果的な活用方法の模索を続けてきた。ICTを効果的に活用することで、「個別最適な学び」と「協働的な学び」を充実させ、「進んで学ぶ子」の育成につなげるべく研究を進めてきた。

２　ＩＣＴの活用による学習指導・教育活動の充実

（１）ＩＣＴ機器活用スキル向上のために

①　４月２１日、ＩＣＴ担当教諭を中心に、ＩＣＴ機器を活用するための校内研修を行った。ここでは、タブレット端末・電子黒板の基本的な操作について研修し、全員でＩＣＴ環境を整える作業を行った。

②　５月１９日、下関市ＩＣＴ推進委員（令和２年度県教育力向上推進員）を講師に招き、「ロイロノート・スクール」の特性、活用の仕方、実践事例等について研修した。実際にロイロノート上で、ＩＣＴを活用した学習活動について「個別最適な学び」についてピンクのカード、「協働的な学び」については黄色のカードに書いて提出し、電子黒板で共有するなどの操作方法、ＫＪ法研究協議等についても教示していただくことができた。これ以後、「一日一ＩＣＴ」を合言葉に、毎日どの学級においても授業でタブレット端末を活用するようになった。

（２）授業実践

① 研究授業１　全校授業（６月１６日）

５年　算数科「合同な図形」（授業者：野母佳澄）

ねらい：三角形や四角形の内角の和をもとにして、多角形の内角の和の求め方を考え、図や文章で説明することができる。

・五角形の内角の和の求め方を考え、タブレット上に表す。（個別最適な学び）

・電子黒板上で考え方を発表し合い、共有する。（協働的な学び）

※ 講師：下関市立王司小学校 前田憲明学力向上推進リーダー

ＩＣＴ活用についての県の動向や、電子黒板を含む板書型指導案のあり方等についても指導助言をいただいた。

② 研究授業２　全校授業：下関市教育委員会研修支援訪問（１１月２４日）

３年　社会科「はたらく人とわたしたちのくらし」（授業者：檀一輝）

ねらい：スーパーマーケットの売り場を見学したことをもとに、売り場にはお客さんのための様々な工夫があることを理解する。

・タブレットで撮影した店内の写真を見て、売り場の工夫を見つけ、書き込みをする。（個別最適な学び）

・ロイロノートを活用しながらペアで意見を交流し、さらに電子黒板上で発表し合い、全体で共有する。（協働的な学び）

③ 県義務教育課地域支援・人事班学校訪問（前期６月２４日、後期９月２４日）

・全学級ＩＣＴを活用した板書型指導案による授業公開

④ 互見授業

・全学級ＩＣＴを活用した板書型指導案による一人一授業公開

【外国語科】
スピーチをカードに録音して聞き直し、修正したものを提出。電子黒板上で聞き合っています。

【国語科】
ローマ字を勉強した３年生は、タブレットのキーボードを使って、文字をローマ字入力しています。

【図画工作科】
鑑賞の授業です。自分の作品を写真に撮り、工夫したポイントを書き込み、発表し合いました。

【体育科】
マット運動の様子を録画して見合い、手の付き方等改善しています。

⑤ プログラミング授業

・下関市教育委員会のｍ-ＢＯＴとタブレットを使って、どの学年も発達段階に沿ったプログラミング学習を行った。５年生はゴールぴったりにｍ-ＢＯＴを停止させる学習を、６年生はグループに分かれ、既定の道を正しく通りゴールまでたどり着くようにするにはどのようにプログラミングすればよいか考える学習を行った。

・３年生は下関市ＩＣＴ研修支援員を講師に、スクラッチを使ったプログラミング学習を行った。子供たちは、タブレットに映し出されたキャラクターにどのような命令をすれば図形が描けるか、手順をしっかり考えプログラミングすることができた。

（３）オンラインを活用した教育活動

① オンラインでの全校朝会

本校では５月末より毎月の全校朝会を、Zoom を活用したオンラインで行っている。当初は感染予防対策の一環であったが、これにより教職員の Zoom による会議の参加等オンライン交流の技術が身に付き、児童もオンラインに慣れ親しむことができた。

② オンラインでの授業交流

６年生が隣接校である西山小学校と下関市立王司小学校前田憲明学力向上リーダーを介し、オンラインで修学旅行前に萩の歴史について合同学習を行った。また、修学旅行後には、修学旅行で学んだことをまとめて互いに発表し合う交流授業を行った。

１年生は、中国青島日本人学校の１年生とオンラインで４回にわたる交流を行った。中国の遊びを紹介してもらうなど、異国の文化にふれることができた。

３　おわりに

今年度は、まずはＩＣＴがどんな場面で使えるのか探りながら、とにかく使う、慣れることに重きを置いてきた。ＩＣＴ機器の積極的な活用により、教師、児童共に活用の能力が向上し、授業形態の幅も広がった。また、タブレットを活用することで児童の学ぶ意欲も高まったことが成果として挙げられる。今後は、どの場面でどのＩＣＴ機器をどのように用いればより効果的な学習になるのか、教育実践と最先端のＩＣＴの**ベストミックス** を図るという視点で、研修をより深めていきたい。